



ヤバイです

後期中間考査の結果が担任のところに集まりはじめている。まだ全体像が見えてこないから何ともいえないのだが、今までの断片的な情報からは、かなり「ヤバイ人」が複数いる模様である。とほほ…。

以前、欠席が増えるとほぼ確実に進級できなくなるが、逆に、教科の成績が悪くて留年するなどということは、よっぽどのことがなければいけないということをお話したと思う。しかし、それは、一人が一つの教科を不得意としている場合であって、複数の科目で危険な状態であるとなると、話はまったく別である。いくら補習や課題を用意するとしても、複数科目では十分な成果が期待できないし、進級後の指導の困難さが明らかに予想されるからである。

ところが、15Rには、複数の科目で赤点をいただいている者がかなりいる。それも、2科目ならまだ目をつぶる(薄目でニラム…笑)ところだが、3科目以上で赤点をもらっている人、しかも10段階評価で「2」以下、つまり「2」と「1」をもらっている人がいる。今からはっきり申し上げておくが、「2」以下が二科目以上ある人は、かなり進級が厳しいといっても過言ではない。

残された考査は、宿題テストと後期期末考査のみである。3教科については、ここはぜひとも宿題テストでやる気をアピールし、それ以外の教科に関しては、授業中のキラキラした瞳で挽回をはかるしかない！ いや、いくら瞳をキラキラさせたとしても、具体的に

数字として結果を出さないことには未来は開かれない状態なのである…。

繰り返すが、かなりヤバイ状態であることを意識しないとイケない。他教科の成績については、担任はいっさい口を挟まない。君たち自身が、それぞれの科目でしっかりと成果を挙げることを期待するばかりである。

まずは授業をしっかり受ける。そして、復習をしっかりやってその日の授業を理解する。予習・復習が理想だが、不得意科目はどちらかといえば復習に重点を入れ、分からなかったらすぐに友だちや先生に聞いて、目の前の教材を一步一步こなしていくことがコツである。理科や地歴に関しても、少しずつ復習してノート整理をしたり、期末考査に向けて暗記ノートを作り始めるなど、具体的な作業を始めるとよいだろう。

不得意な科目だって、まったく勉強してこなかったわけではないはずだから、今さら「一から始める」といったことにこだわる必要はない。とにかく、目の前にある課題を理解することが大切である。そして、もう一つは、以前紹介したマジックワード「学びたいことがあります、教えて下さい、お願いします」である。先生方だって、不得意な諸君のことはよ〜くご存じなのであって、むしろ、そういう諸君が尋ねてきてくれることを期待しているのである。不得意科目の先生の所に顔を出すのは敷居が高い感じがするだろうが、どうか君たちの来訪を待ちかねている？ 先生方の期待にも応えてほしいものだ。